

博士課程教育リーディングプログラム 平成26年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成23年度		
申請大学名	京都大学	申請大学長名	山極 壽一
申請類型	複合領域型（安全安心）	プログラム責任者名	北野 正雄
整理番号	D01	プログラムコーディネーター名	寶 馨
プログラム名	グローバル生存学大学院連携プログラム		

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

現代の地球社会においては、①巨大自然災害、②突発的人為災害・事故、③環境劣化・感染症などの地域環境変動、④食料安全保障といった危険事象や社会不安がますます大きく、かつ広がっている。

本学位プログラムでは、「グローバル生存学」という新たな学際領域を設定し、

(1) 人類が直面する危機を乗り越え、人間社会を心豊かにし、その安寧に貢献するという使命感・倫理観にあふれた人材

(2) 自らの専門性に加えて幅広い視野と知識・智恵によつて的確に対策を行うことのできる判断力・行動力を備えた人材

の育成を目指し、安全安心分野において研究・教育の実績・経緯をもつ研究科が結集して、研究科横断型の大学院連携の教育システムを確立する。

2. プログラムの進捗状況

新入生の履修生（予科生）17人及び3年次編入履修生（予備生）10人のうち、それぞれ14人、4人を本科生として受け入れた。これにより、学生数が51人（3年生20人、2年生17人、1年生14人）となった。年度末に2年生2人が離脱した（就職及び病気のため）。履修管理、成績管理、リーダーシップ要件の達成度の確認に用いることのできるeポートフォリオシステムを概成し、運用を開始した。学生諸君が、授業レポートや国内外での実習・活動報告など、種々の学びの証拠を格納し、それを指導教員、メンター教員が参照して、学生とインタラクティブに研究指導を行えるシステムであり、GSSフォリオと名付けた。実習系科目の報告会においても、その評価にこのシステムを利用している。第4回の国際アドバイザー会議を開催し、学生が主導するセッションを設け、国際会議におけるリーダーシップ発揮の場とした。また、ライジングリーダー講演会、リーディングエキスパート講演会、招聘教授による英語スキル研修、産学連携講演会を開催し、学生の啓発・スキルアップの場を設けた。産学協働イノベーション人材育成コンソーシアム事業により設立された産学協働イノベーション人材育成協議会に本プログラムの学生を登録し、産業界との連携を開始した。2月に東一条館へ移転し、本格的なプログラムの実施場所を確保した。